

PGT-A（着床前胚染色体異数性検査）の 対象が変わりました

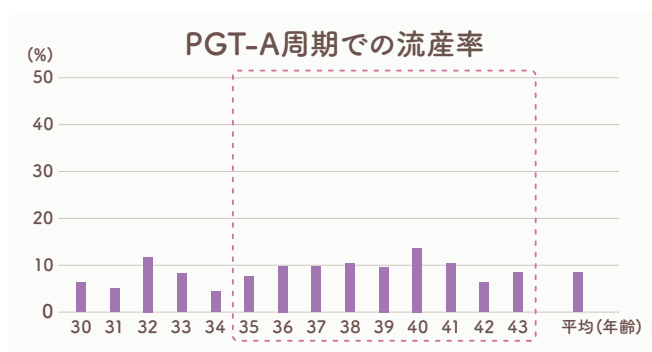
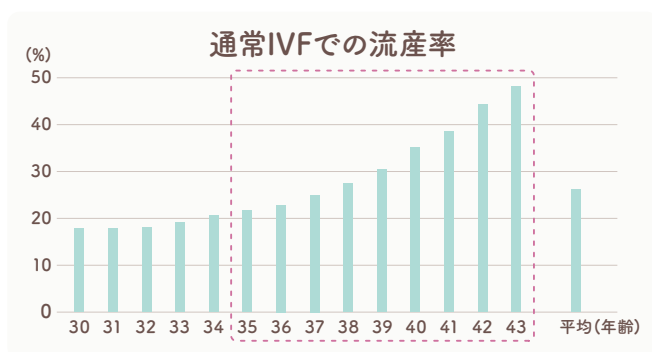
PGT-A とは？

体外受精によって得られた胚の染色体数を移植する前に網羅的に調べる検査で、欧米では流産を防ぐ目的で既に実施されています。日本では日本産科婦人科学会の見解に則して実施され、これまでは不妊症、不育症、染色体構造異常（均衡型染色体転座など）に当てはまる方のみが対象でした。この度の細則の改定（2025年9月）により高齢のご夫婦はご希望があれば検査を受けることが可能となりました（目安として35歳以上）。

PGT-A に関するご質問や、ご希望の場合は外来にて医師にご相談ください。

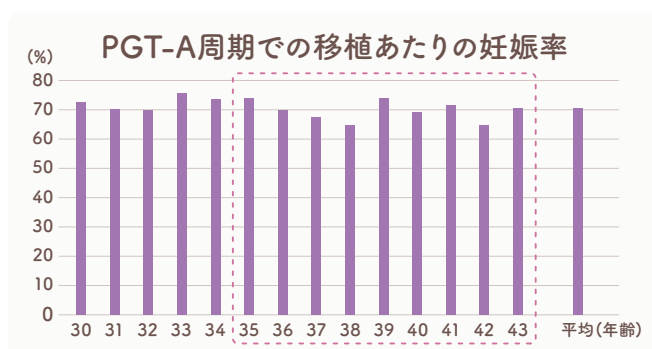
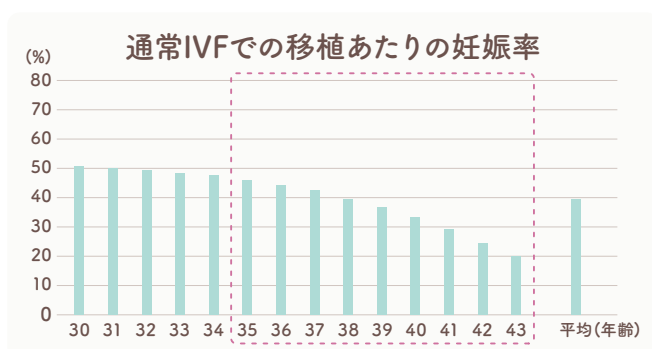
PGT-A のメリット

① 流産のリスクを減らします



流産率は女性患者年齢と共に上昇し、43歳では約50%が流産となっているのに対し、当院も参加した日本での臨床試験では、PGT-Aを実施したどの年齢でも約10%程度の流産率となりました。

② 移植あたりの妊娠率向上が期待されます



通常のIVFでの結果では女性患者年齢の上昇と共に胚移植あたりの妊娠率は低下傾向が見られますが、PGT-Aを実施したどの年齢でも約70%の臨床妊娠率が得られました。

参考資料：日本産科婦人科学会 ART データブック 2023 年
Iwasa T, et al. Reprod Med Biol, 2023 May 31;22(1).

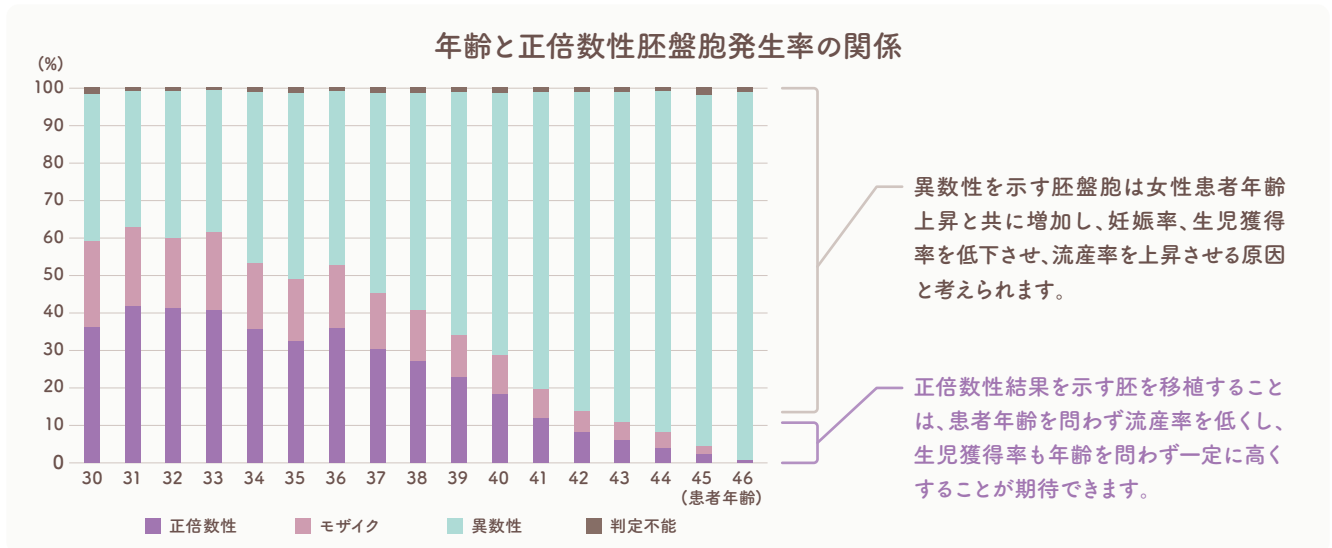


PGT-A のデメリット

- **検査は 100% 正確ではありません。**
数パーセントの確率で偽陰性、偽陽性が含まれるとされています。
- **検査をしても染色体異常に起因しない流産は防ぐことができません。**
正倍数性を示す胎児でも流産は起こり得ます。また、偽陰性、生検の影響もあることが予想されます。
- **保険診療が可能な患者様でも自費での診療となります。**
IVF 治療（採卵から胚凍結、移植）は自費で行われ、その他に検査費用として胚盤胞1個あたり10万円（税別）が加わります。

日本の PGT-A の臨床試験結果から考えられること

日本の臨床研究では女性患者年齢の上昇に伴い胚の異数性の割合が顕著に上昇したこと、また正倍数性の胚を移植した結果、年齢に関係なく一定に高い妊娠率（約70%）と、低い流産率（約10%）が得られました。この結果は海外の報告と比較しても良好な結果であったと解釈できます。



参考資料：Iwasa et al., 2023

PGT-A 採卵周期までの流れ

必要書類のお渡し

当院外来医師に
お問い合わせください。

外来でお渡しする書類
『PGT-Aを初めて希望される
患者様へ』をよくお読みくだ
さい。

Web問診に お答えください

書類に記載されたQRコード
より登録可能です。
他にも日本産科婦人科学会
動画視聴、確認シートの記
載、およびPGT-A前検査な
どが必要です。

ご夫婦揃っての カウンセリング

当院所定の同意書に各自ご
署名をお願いいたします。
Web問診にお答え頂いた後
にご登録されているEメール
アドレスにカウンセリング予
約のご連絡をお送りいたし
ます。

ご夫婦での 同意が得られたら 採卵周期の開始

